

菅原城北大橋

淀川に優し麗し斜張橋の沿革概要

供用開始	平成元年(1989)6月 (昭和59年(1984)に着工)
全長	1,350メートル (河川部1,203メートル)
幅員	25.5メートル
行政区	旭区、東淀川区
正式名称	淀川新橋有料道路(大阪市管理)
総費用	約234億円
形式	3径間連続斜張橋(合成桁橋)
設計等	日本構造橋梁、施工日立造船と三菱重工。公園部は鴻池組
橋脚	壁式中空鉄筋コンクリート他
橋桁	合成桁橋(河川内の橋桁部分は、フレシナー方式カンチレバー工法、通称やじろべえ形式による鋼とコンクリートの接合で、当時珍しい合成桁)



写真■川面に映える自然配慮の橋と旭区のお宝である大阪工業大学全景



図■橋梁位置図

大阪市で最初の有料道路橋

菅原城北大橋は、旭区生江の城北地区と東淀川区豊里の菅原地区を結ぶ大阪市で最初の有料道路橋で、普通車の通行料100円のため、通称『百円橋』と呼ばれ利用されている。
(大型車150～350円、原付125cc以下10円)

当時、淀川に架かる市内北東部の橋は、長柄橋と旭区の豊里大橋の2橋で、慢性的な交通渋滞があった。渋滞緩和と市中心部への連絡を充実させるため、都市計画道路豊里矢田線整備事業の一部として、2橋の間地点に建設された。

- 市内に斜張橋は6橋、内2橋が旭区にあり、有料橋は2橋、内1橋が旭区にある。
- 全国に100円の有料橋は約10橋あり、なかでも長崎は島とも有料橋が多い。
- 菅原城北大橋は、「浪速の名橋50選(淀屋橋・天神橋・豊里大橋等)」のひとつ。(浪速の名橋50選は、大阪市に架かる全橋梁を対象に、社団法人土木学会関西支部が名橋として選定したものである。)



写真■柱間に多数ケーブルを張り強風への配慮がされている斜張橋

橋上から公園内の四季折々の素晴らしさが一望できるのは珍しい



写真■下部工

公園内を縦断するため、多くのアーチの丸みで優美さを出している。



写真■橋から城北公園を見る



写真■自転車用・車椅子用スロープも両側に完備



写真■堤防との接続部

自転車歩行者専用道に乗り入ると、多くの橋と鉄道線を見てサイクリングが楽しめる。

- なにわ自転車道(府道803号旭西淀川自転車道線約22キロメートル)で西淀川区へ。
- 北大阪周遊自転車道(府道801号大阪吹田自転車道線約20キロメートル)で千里万博公園や北区中之島へ。

～水と緑～



淀川の悠々の流れと両岸に広がるグリーンベルトやヨシ原は雄大で美しい

自然への配慮

橋の付近には、天然記念物のイタセンパラ(近年は未確認)をはじめ淡水魚が棲息するワンドや川べりに群生するヨシ原などがあるため、橋は貴重な自然に配慮するとともに、洪水対策のため川中に長いスパンの橋脚が可能な斜張橋となりました。自然と橋梁技術の調和が年月とともに私達に多くの思い出をつくってくれる。鳥たちの休息も飛び交う姿も橋上にやさしく美しい。

～夜間景観～



写真2点とも■菅原城北大橋の夜間景観



写真■豊里大橋の力強いライトアップ

昼間の景観以上に夜間も写真家、散策者に人気が高い。主塔やケーブルはスマートで美しい。隣の豊里大橋とのセットは特に優美である。